

遠藤委員からの御意見

1 広域避難実施における留意事項について

- 実効性を向上させる観点からの意見として、年齢の若い者から避難させるべきである。被ばくの影響の大きさは年齢により異なる。妊産婦、授乳婦も優先する。
 - ①未就学児とその母親、妊産婦、授乳婦
 - ②小学生
 - ③中学生
 - ④高校生

- 高齢者には避難しない判断もありえる。福島事故の実体験でも、避難により体調を崩された方については、避難させない方がよかったと思われた事例があった。

- 被ばく軽減のために屋内退避をしつつ、ゆっくりと避難する心がけをもつ必要がある。原爆被爆者の調査研究によると、100mSvよりも低い線量ではがんリスクの有意な増加は認められていない。したがって、OIL2の $20\mu\text{Sv/h}$ の場合、200日のうちに避難すればよいと計算され、慌てて避難しないようにする。

- 安定ヨウ素剤の服用についても若い者、40歳以下を優先すべきである。子どもを最優先にする。問診についても、子どもの場合、短時間でできるのではないか。

- ヨウ素剤は、避難中継所へ移動するバス車内で服用してもよいのではないか。

- ヨウ素剤はヨウ素にしか効果が無く、セシウム等による被ばくに対しては効果はない。慎重に取り扱うこと。

- スクリーニングポイントできちんとスクリーニングしていることをアピールすることで、県民に安心感を与えられるのではないか。受け入れる自治体にも安心感を与える。